

私のふるさと

私の故郷

小島 武雄

いま記憶に残っているのは大阪の下町での思い出です。そこは大阪市西淀川区辺りで淀川の河口が広く、海拔 0m 地帯です。その頃周辺は有名な公害の町でした。阪神工業地帯の一部で、頭の痛くなる刺激臭のある空気、オレンジ色をした流れないドブ川、カーンカーンドーンと響く鉄工場の騒音、土に染み込んだ油の匂い、いつも黒い塊となった雲がドーンと頭を抑えておりました。そんな工場密集地帯の近くに私の家はありました。

昭和 40 年、今では想像もつかないマンモス中学校時代（一学年は 21 クラスも）大気汚染の一番ひどい頃の全体朝礼で整列している時、近くの工場の亜硫酸ガスが漂い、気分が悪くなり校庭にバタバタと倒れる生徒がたくさんいました。また授業中には夏でも窓を閉めることもよくありました。思えば西淀川区は大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、工場騒音や振動、地下水くみ上げによる地盤沈下な級生も多い中、私はよく病気にならずにいられたと思います。

それでも小さい頃は、それほどひどい状況でもなく、犬を連れて淀川まで行きました。盛り土だった堤防の石積みの隙間に逃げ込んだカニを追いかけたり、川砂を掘ってシジミを採ったり、ゴカイを餌に竹竿でハゼ釣りをして遊んでいました。

近くには、3 階建くらいのボロボロの鉄筋の高射砲陣地がまだ残っており、板を張って何人かの友達が住んでいたのを覚えています。焼け跡だったのででしょうか。たくさんあった空き地と原っぱで、一日中飽きずにべったんやビー玉で遊んでいました。

昭和 36 年の第 2 室戸台風の洪水で、堤防にもすごい大きな穴がたくさん空き、土手が大きく削られ、決壊寸前だった怖さが、いまだに目に浮かびます。その後、改修工事で地盤沈下の堤防のかさ上げや、コンクリートの高い擁壁になった頃から、土手の草原が無くなり、いつの間にかバツ

タ取りにも行かなくなりました。

あまり良い思い出はありませんが、いまその頃の街を、グーグルマップで見ると、私の家があった辺りには、アパートが建っています。隣の家の表札は懐かしい人のままでした。母校の木造の小学校は 4 階建のビルになりましたが、石塔に登り冒険遊びをした神社も変わらず、街区そのものは昔のままです。

故郷を離れてもう 45 年ほどになります。西淀川公害訴訟も 20 年かけて和解に終わり、その後地域再生への取り組みで、あのドブ川も緑のきれいな緑陰道路に変わりました。今は大阪まで一駅の便利な水辺環境の良い住宅地になってきています。「公害」という言葉を知らない若者もいると聞きました。高度成長期の私の故郷を頭に描きながら、少しでも自然環境を守りながら暮らしていきたいと思えます。

懐かしいような、そうでないような、よく遊んだあの製麺所のアキちゃんは、今どうしているのかな。



現在の淀川の河川公園



ドブ川が大野川緑陰道路に